

横浜能楽堂特別展

「能面コンクール2016 入選作品展」

開館 20 周年を記念して企画公演「横浜の能」で上演される能「六浦」に使用する能面を全国から公募を行いました。その入選作品を展示します。応募作品の中から、能「六浦」のシテを演じる「人間国宝」の野村四郎が選りすぐった能面です。製作者が一刀一打思いを込めて打った作品をじっくりご覧下さい。

会期：平成 28 年 11 月 26 日 (土) ~ 平成 29 年 1 月 9 日 (月・祝)
会場：横浜能楽堂 二階展示廊
開館時間：午前 9 時 ~ 午後 8 時
休館日：平成 28 年 12 月 5 日 (月)・12 日 (月)・29 (木) ~ 31 日 (土)
平成 29 年 1 月 1 日 (日) ~ 3 日 (火)

入場料：無料

※有料の催しがあるときは、チケットをお持ちでない方はご入場できません。
※開館時間は変更になる場合がございます。詳しくはお問合せ下さい。

Queen Alice

横浜ベイホテル東急

フランス料理「クイーン・アリス」お食事付きチケットのご案内【限定 24 名様】

石鍋裕シェフがプロデュースするフランス料理の名店「クイーン・アリス」のお食事をお召し上がりいただいた後、横浜能楽堂にて公演鑑賞いただくチケットをご紹介します。横浜ベイホテル東急から横浜能楽堂までお車でお送りますので、ゆっくりとお食事をお楽しみいただけます。公演鑑賞前に優雅なひとときをお過ごしください。



【料金】 チケット代・お食事代・片道送迎代込み (税・サービス料込)

一般価格

S席：12,500 円 A席：11,500 円 B席：10,500 円

友の会特別価格

S席：12,100 円 A席：11,100 円 B席：10,100 円

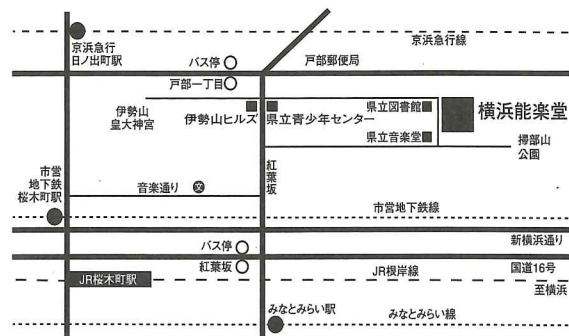
※お食事付きチケットは電話または窓口でのみ販売いたします。

※公演 2 週間前までの受付となります。

※横浜ベイホテル東急へマイカーで来館される場合はお知らせください。

※お食事に介助が必要な方はお知らせください。

【詳細については横浜能楽堂までお問い合わせください。】



交通のご案内

◇電車利用/JR根岸線・市営地下鉄線「桜木町」駅下車徒歩15分/みなとみらい線「みなとみらい」駅下車徒歩20分/京浜急行「日/出町」駅下車徒歩18分 (タクシー利用は各駅共約5分)

◇バス利用/戸部1丁目 (市営バス 103 系統) 下車徒歩5分/紅葉坂 (市営バス 8、26、58、89、101、105、106 系統/神奈中バス横 43、横 44、港 61 系統/江ノ電バス大船駅行、栗木行/京急バス110系統) 下車徒歩10分
※ 駐車場はございませんので、ご来場の際は電車・バスをご利用下さい。

※ 内容・出演者に変更がある場合がございます。あらかじめご了承ください。

※ 会場への飲食物の持ち込みはご遠慮下さい。

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2

http://www.ynt.yaf.or.jp

tel.045-263-3055

開館 20 周年記念 横浜能楽堂企画公演

横浜の能

平成 28 年 11 月 26 日 (土)

午後 2 時開演 (午後 1 時開場)

能 「放下僧」 (喜多流) 佐々木多門

狂言 「猿 躰」 (和泉流) 野村 萬斎

能 「六 浦」 (観世流) 野村 四郎

チケット料金:

S席 8,000 円 / A席 7,000 円 / B席 6,000 円

チケット発売:

平成 28 年 8 月 13 日 (土) 正午から (初日は電話・Webのみ)

※ 電話予約開始日にチケットが売り切れた場合、窓口での販売はありません

お申込み・お問合せ:

横浜能楽堂

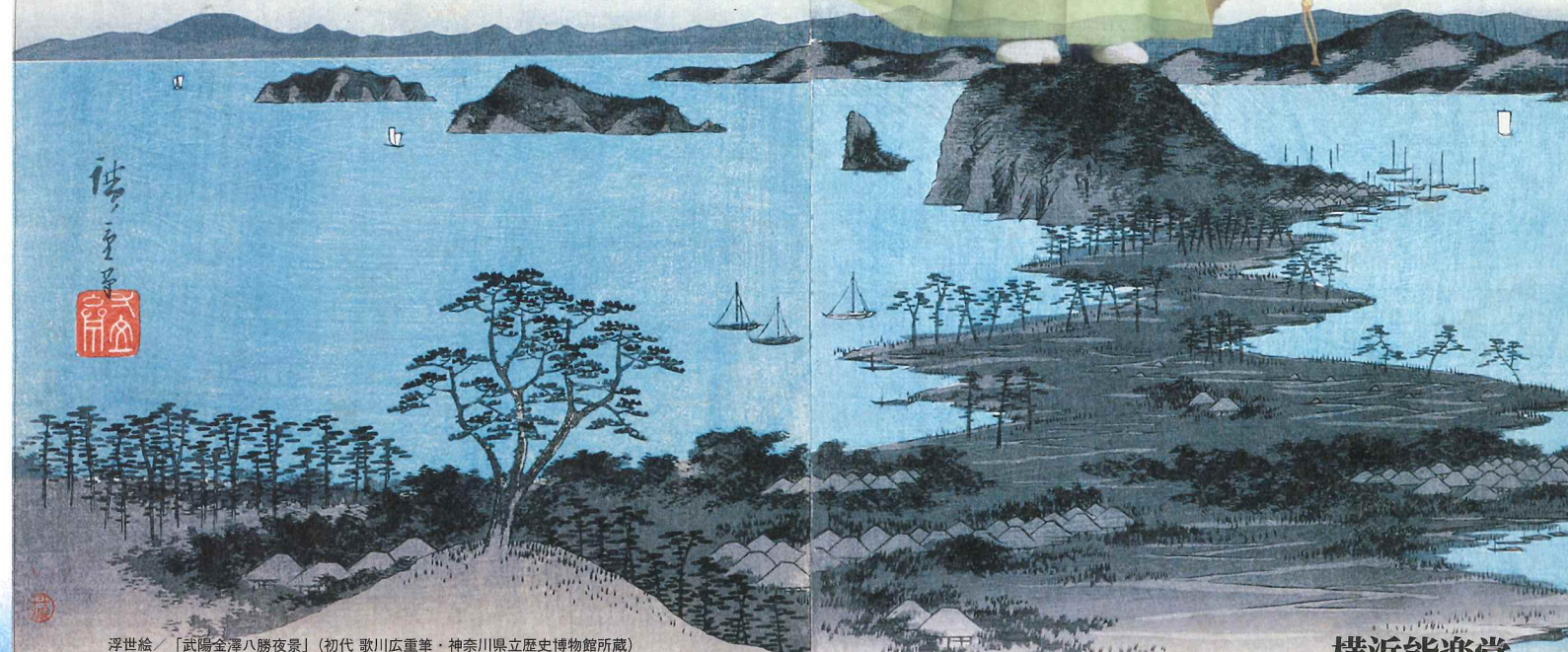
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2

電話 045-263-3055

Web http://www.ynt.yaf.or.jp

主催 横浜能楽堂 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

※ 平成 28 年度劇場・音楽堂等活性化事業



浮世絵 / 「武陽金澤八勝夜景」 (初代 歌川広重筆・神奈川県立歴史博物館所蔵)
写真 / 能「六浦」 (観世流) 野村四郎 (撮影: 前島吉裕)

横浜能楽堂

能は、国の中心が西日本にあった中世に成立したため、関東を舞台とした作品は少ない。その中であって、現在の横浜市金沢区を舞台とした曲が2つある。一つは、瀬戸神社を舞台に、旅芸人に姿を変え、父の仇を追い求める兄弟の姿を描く、芸尽くしが見どころの「放下僧」。もう一つは、称名寺を舞台として、楓の精が風情豊かに舞う「六浦」だ。

横浜能楽堂開館20周年を記念し、横浜を舞台とした能二曲を一挙上演。また、公演に合わせ、「六浦」で使用する能面を募集する能面コンクールを実施。シテを演じる野村四郎が審査員として選び、大賞受賞者の能面を舞台で使用する。



能 「放下僧」 (喜多流)

シテ (小次郎の兄)	佐々木多門	
ツレ (牧野小次郎)	大島 輝久	
ワキ (利根信俊)	館田 善博	
アイ (信俊の従者)	石田 幸雄	
笛	竹市 学	
小鼓	田邊 恭資	
大鼓	柿原 光博	
後見	塩津 哲生	
	粟谷 浩之	
地謡	出雲 康雅	大村 定
	狩野 了一	友枝 雄人
	内田 成信	金子敬一郎
	友枝 真也	塩津 圭介

狂言 「猿躰」 (和泉流)

シテ (猿躰)	野村 萬齋	
アド (男猿)	深田 博治	
小アド (太郎冠者猿)	月崎 晴夫	
小アド (姫猿)	高野 和憲	
立衆 (供猿)	中村 修一	
立衆 (供猿)	内藤 連	
立衆 (供猿)	飯田 豪	
後見	竹山 悠樹	
	破石 澄元	
笛	竹市 学	石田 幸雄
小鼓	田邊 恭資	破石 晋照
大鼓	柿原 光博	
太鼓	小寺真佐人	
地謡	野村 万作	
	岡 聡史	

能 「六浦」 (観世流)

シテ (里の女・楓の精)	野村 四郎	
ワキ (旅僧)	殿田 謙吉	
ワキ (従僧)	大日方 寛	
ワキ (従僧)	梅村 昌功	
アイ (里人)	野村太一郎	
笛	杉 市和	
小鼓	曾和 正博	
大鼓	國川 純	
太鼓	小寺 佐七	
後見	武田 尚浩	
	野村 昌司	
地謡	浅見 真州	浅井 文義
	藤波 重彦	下平 克宏
	坂井 音雅	青木 健一
	武田 祥照	田口 亮二



佐々木多門 (ささきたもん)

シテ方喜多流。1972年生まれ。喜多流宗家内弟子を経て現在、塩津哲生に師事。喜多流職分として、また喜多流の同期3人で結成した「燦ノ会」同人として活躍するほか、ゆかりのある中尊寺・白山神社能舞台でも公演を行う。重要無形文化財総合指定保持者。



野村萬齋 (のむらまんざい)

狂言方和泉流。1966年生まれ。祖父・六世野村万蔵および、父・野村万作に師事。国内外での狂言・能公演に出演する一方、現代劇や映画への出演、舞台演出なども手掛ける。99年芸術祭新人賞ほか受賞多数。重要無形文化財総合指定保持者。



野村四郎 (のむらしろう)

シテ方観世流。1936年生まれ。六世野村万蔵の四男。観世左近元正に入門、師事。観世寿夫に師事。伝統を重んじつつ、新作能、他流や異分野との共演にも積極的に取り組む。98年紫綬褒章受章。06年日本芸術院賞等受賞多数。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。

能 「放下僧」 (ほうかそう)

牧野左衛門は、利根信俊と口論した末、殺害されてしまいます。左衛門の子、牧野小次郎は、父の無念を晴らすため、出家している兄のもとを訪れます。弟の説得を受けた兄は、共に親の仇を討つことを決意します。利根信俊は夢見が悪いため、瀬戸の三島神社(現在の金沢区にある瀬戸神社)に参詣することになりました。そこに放下の芸人に扮した兄弟が現れ、信俊に近づきます。兄弟は様々な芸尽くしを見せながら隙を伺い、みごと信俊を討ち果たすのでした。

狂言 「猿躰」 (ざるむこ)

嵐山の舅猿が太郎冠者猿を呼び、今日は賀入り日なので準備をするように言い付けます。そこに吉野山の躰猿が姫猿や供猿を連れて訪ねて来ます。盃事を済ませた後は、酒宴となって、舞を披露し合い、めでたく舞い納めます。能「嵐山」の替間ですが、しばしば独立した狂言として上演されます。主なせりふ以外は「キャアキャア」と猿の鳴き声のみで表現する異色の作品です。

能 「六浦」 (むつら)

都の僧が東国修行の途中、六浦にある称名寺に詣でると、山々の紅葉は今が盛りなのに、一本だけ紅葉していない楓の木があります。そこに現れた女に話を聞くと、女は、一昔、藤原為相卿がこの地を訪れた際、この楓だけが色濃く紅葉しているのを見て『いかにしてこの一本に時雨けん 山に先立つ庭のもみぢ葉』と詠じた。すると、この木は是に感じ入り、それ以来紅葉しなくなった—と語ります。実はその女はこの楓の精でした。夜になると、楓の精が姿を現し、四季とともに移ろう草木について語り、舞い、夜明けとともに消えていくのでした。